



山梨YMCAチアダンスチームは2月11日にUSA静岡大会に参加しました

鹿児島YMCA総主事 新内 博之

山梨YMCAと鹿児島YMCAの協働プログラムであるチアダンス活動。早いもので4年間という月日が経過しました。まるでテレビの講座を聞いているような一方的なコミュニケーションに見えるオンラインレッスンは、時に相互の情報共有や課題共有を行うこと、そしてそれを後で振り返ることが、山梨YMCAの子どもたちにとって新たな切り口となる学びの場となりました。

そのような試行錯誤を山梨YMCAと共に繰り返し、作り上げてきたチアダンス活動において、発表の機会、自分たちのチアダンス界における第三者の評価ということで、競技大会に参加することを行っています。

昨年は2年目の参加にして、ハーフタイムショーを行う部門においてグッドスピリット賞という特別賞をいただくことができました。その喜びはチアダンスを習う子どもたちにとって大きな活力になったことは間違いありません。

今年は、もうひとつステップアップしたいということで、順位や点数が出る競技部門への参加というチャレンジが子どもたちの方から沸き起こってきたのは必然の流れだったのでしょうか。

鹿児島YMCAは、この競技部門に毎年挑戦しています。僥越ながら、これまで15年連続で全国大会出場という実績を残しています。それゆえに、競技部門へのチャレンジというの



は大変厳しい大きなチャレンジであることを身をもって知っております。その厳しさを子どもたちと何度も確認し、強い意志とチャレンジ精神を受け止める中で、今年一年の活動を行ってきました。

そして迎えたUSA静岡大会。周りのチームは週に複数回、当然対面で練習し、汗と時には涙を流しながら全国大会という大きな目標に向かって取り組んできたところばかりのチームが集まる競技部門。そこに週一回のオンラインレッスンで練習を積んできた山梨YMCAの子どもたちのチャレンジ。結果として、当然のことながら通用しませんでした。山梨YMCAにとって未来を切り開く大きな勇気ある一步を記すことができました。

昨年のグッドスピリット賞受賞で沸いた山梨YMCA。今年は悔しさが残る大会であったと思いますが、子どもたちにとって貴重な経験をしたことと思います。

私たちYMCAは、無理であるとあきらめず、果敢にチャレンジしてきた歴史をもっていると思います。そのスピリットは、確実に山梨YMCAのチアを習う子どもたちに受け継がれています。これからも、彼女たちの成長と目標に向かって果敢にチャレンジしていくことをサポートしていきたいです。どうか、この勇気ある一步を踏み出せた子どもたちを讃えてあげてください。

■年間聖句

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。(コリントの信徒への手紙Ⅰ 13章4節)

■山梨YMCAの使命

- 自己の価値を見出し、共に生きる社会を創り出すために、青少年から高齢者までの、生涯にわたる学びのプログラムを展開します。
- 創られた全てのもので大切に、自然と人間が共存してゆくための働きをすすめます。
- 全世界の人々と連帯し平和を表現してゆくために、特にアジア地域における日本の歴史的な責任を自覚し、近隣諸国とのよりよい友好関係を育てます。
- 全ての人々と共に、真の自由と平等を実現するため、差別や偏見を取りのぞくことに努めます。

「夢」という言葉を聞くと、皆さんはどんな情景を思い浮かべるでしょうか。大きな舞台に立つ自分、誰かの役に立つ自分、家族や仲間と笑い合う日々。人の数だけ、未来の自分の姿があります。夢は、ただふわっと心に浮かぶ願いではなく、「目標」と結びついたとき、初めて現実に向かって動き出します。

以前、「夢ってなぁに？」と聞かれたことがありました。その問いかけに、私は少し言葉を失い、同時に自分自身を見つめ直す機会となりました。夢とは何か。遠い空の上にあるものではなく、私たちの心の奥に静かに息づく希望であり、「未来の自分」を照らす光だと、教えられました。

今、私の夢はタイトルにある「LOVE FOR ALL」を描くことです。神さまから与えられたこの命を、惜しみなく自分のため、誰かのために、私を取り巻く人々の笑顔のために使い切ること。そして、その命を自分のために使い切ること、支えてくれているスタッフや協力者、見守ってくれている家族のためでもあるのです。自分を大切にすることは、結果として周りの人々を喜ばせ、支えてくれる人々への感謝を形にする生き方だと信じています。

しかし、正直に言うと、私自身も揺らぎを感じるがあります。総主事として日々多くの課題に直面し、「これでいいのだろうか」「自分にできるのだろうか」と不安に思う時もあります。そんなとき、必ず「未来を描く」ことを思い出し、少し立ち止まります。「数年後の自分はどうありたいか」「自分を大事にしながら、どんな表情で誰の隣に立っていたいか」と問いかけると、心の奥に眠っていた願いが自ずと見えてきます。この「未来の自分」を思い描くことこそが、夢への第一歩であり、私の揺らぎを優しく包んでくれるのです。

そこで大切になるのが「想像力」です。想像力とは、まだ見ぬ未来を思い浮かべる力であり、同時に他者の思いに寄り添う力でもあります。自分の夢だけでなく、「もし自分が目の前の子どもたちの立場だったら」「この地域の子どもたちが自由に夢を語れたら」と想像を巡らせるとき、私たちの夢は個人的な願いから、誰かと分かち合う希望へと広がって

きます。YMCAの活動は、いつもこの想像力に支えられてきました。まだ出会っていない子どもたち、これから成長していく若者たち、人生を全うしようとする高齢者の方々と「どんな未来を一緒に描けるだろうか」と考え続ける時の歩みです。

もちろん、夢を持つだけでは足りません。夢を具体的な目標に落とし込み、そこへ向かう「努力」が必要です。皆さんご存じの大谷翔平選手が高校時代に作った有名な目標達成シートを思い出します。中央に「8球団からドラフト1位指名」を掲げ、周囲に「スピード160キロ」など81の具体目標を書き込み、毎日見直ししながら実行したそうです。努力とは、特別なときだけががんばることではなく、小さな一歩を積み重ねる習慣です。毎日少しずつ誰かの話を聞く、新しいことに挑戦する、失敗しても「自分を大事に」立ち直ってみる。そんな静かな努力の積み重ねが、やがて大きな力になります。夢は、努力の伴わないところには根づきません。しかし、努力の向こうには、必ず新しい景色が待っています。

YMCAには、多くの子どもや若者、大人たちが集います。彼らにとって、自分の夢を語れる場所、「未来を描く」ことを応援してくれる仲間の存在は、とても大きな支えです。私たち大人もまた、いつでも夢を持ち直すことができます。「もう遅い」と思う必要はありません。新しい目標を掲げ、「自分を大事に、命を使い切る自分」をもう一度描き直し、そのために何が必要かを考えながら、一歩を踏み出してみましょ。

夢は、私たちを前へと押し出す力です。その夢を共に語り、支え合う仲間がいるとき、歩みはもっと力強いものになります。山梨YMCAが、皆さん一人ひとりの夢を大切に、「未来を描く」ための出会いと学び、そして挑戦の場であり続けたいと願っています。

あなたの「未来の自分」は、どんな姿でしょうか。どうか、その姿を心の中でそっと描いてみてください。そして、今日という一日を、「自分を大事に、命を使い切る」ための大切な一歩として、次年度も共に歩んでいきましょう。

フクロウくらぶ

「よいしょ！」でつながる時間

チャイルドケア事業部 平賀 佳雅

1月31日(土)、YMCA本館3階のテラスには、「よいしょ！」と元気なかけ声が響き渡り、今年もにぎやかに餅つきが始まりました。オリーブの木の利用者さん、野外活動、フクロウくらぶに参加した子どもたち、甲府21ワイズメンズクラブの皆さまが共に集い、笑顔あふれる盛大な行事となりました。豚汁づくりでは、大人も子どもも自然と役割分担をしながら、協力し合う姿が見られました。みんなで力を合わせて作り上げた豚汁は、湯気とともにやさしい香りが広がり、心までほっと温まるおいしさでした。お餅つきでは、初めて杵を持つ子どもたちも多く、重さに驚きながらも、真剣な表情で挑戦していました。周りからの「よいしょ！」の声援に背中を押され、一回一回力を込めてつく姿はとても頼もしく、つくたびに少しずつなめらかに変わっていくお餅の様子に、目を輝かせていました。参加者の皆さまが優しく声をかけてくださり、世代を越えた温かな交流の時間にもなりました。やわらかく伸びるつきたてのお餅に、「できたてはちがうね！」とうれしそうな声もあがり、冬ならではの味覚を存分に楽しむことができました。

たくさんの方のご協力のおかげで、子どもたちにとって心に残るすてきな一日となりました。甲府21ワイズメンズクラブの皆さま、本当にありがとうございました。



本プログラムでは、アウトドアクラブとフクロウくらぶが合同で行ったものです。その時の様子を甲府21ワイズメンズクラブの小澤智之さんがダイジェスト動画にまとめてくださいましたのでご覧ください。

動画はこちらから▶



チャイルドケア事業部 研修報告

YMCAでは、全国に広がるネットワークをいかし、各分野ごとに様々な研修や担当者が開催されています。また、YMCA以外が主催する研修にも積極的に参加しています。1月には、山梨YMCAスタッフ2名が担当者に参加しました。

- 2026年1月24日（土）～25日（日） 全国YMCAアフタースクール担当者会 会場：高尾の森わくわくビレッジ
参加スタッフ（チャイルドケア事業部：小見山 優未、佐藤 健一郎）

いなくてはならない場所から、いたい場所へ

チャイルドケア事業部 佐藤 健一郎

私は、1月に全国YMCA担当者のアフタースクール研修会へ参加しました。今回の研修会は、子どもに携わる立場として、「子どもの居場所」について改めて考える機会になりました。

これまで私は「安全で楽しく過ごせる場所」を整えることが子どもたちの居場所づくりだと考えていました。

しかし、若者共同実践全国フォーラム理事の阿比留久美（あびる くみ）さんの講演、他事業所のスタッフとの意見交換を通して、居場所とは物理的な空間だけでなく、「この場所にいてもいい。この場所にいたい」と子ども自身が感じられる関係性や安心感を築くことが重要だと学びました。

なにげない時間の大切さ

チャイルドケア事業部 小見山 優未

初めて参加した全国YMCAアフタースクール担当者研修会。今回の研修では「子ども・若者の居場所」というテーマのもと、講演をお聞きしグループセッションを行いました。

“子どもの居場所”とはいったいどういうことなのか、“こどもまんなか”とはどういう状態をさすのか、曖昧な言葉で掲げられているスローガンをかみ砕き、それぞれの職場の状況を共有しながら、子どもの居場所を作るためにどんなことができるのか議論を交わしました。

面白いなと思ったのは基調講演の中でお聞きした「何もしない時間を作る」という言葉。子どものために何かしようとしすぎてイベントを企画して忙しくなり、子どもたちの本当の声を聞き逃していないか？子どもたちが自分たちで居場所を作り出すチャンスを奪ってしまっているのではないか？そんなお話にハッとさせられました。子どものためと思いながらも大人の都合で動いてしまっているのかもしれない…自分自身の普段の行動を見つめ直す機会となりました。

送迎の車の中、おやつを食べている時、宿題が終わった後…そんななんでもない時に生まれる会話を聞き逃さず、子どもたちの大切な本当の気持ちを上手にキャッチしていけるよう心に余裕をもって子どもたちと向き合っていきたいです。



PHD協会 研修生受入れ

PHD協会の研修生を受け入れて

生涯学習事業部 田草川 啓

2月3日（火）～2月5日（木）、神戸にあるPHD協会というNGOから、ミャンマー出身のピューピューさん1名が山梨YMCAで研修を行いました。

当初は2名の予定でしたが、ルビーさんは高熱のため参加することができませんでした。

ホームステイ先の野々垣理事長宅では、「お父さん」「お母さん」と呼び、とてもリラックスして過ごしている様子でした。

本館にあるきらきら教室、プライムタイム、野の花保育園、キッズパラダイス、オリーブの木で、短い時間ではありましたが研修を行い、利用者の皆さんと交流しました。また、2月3日（火）の夜には、甲府21ワイズメンズクラブの皆様とも交流ができました。

ランチタイムにはピューピューさんを囲み、ミャンマーのお話を聞いたり、日本のことを伝えたりと、スタッフとも豊かなひとときを過ごしました。

僧院学校の先生であるピューピューさんにとって、今回の学びが母国で生かされることを願っています。



ワイズナイトフォーラム「不登校の今を考える」

ワイズメンズクラブ ナイトフォーラムⅢについて

松本ワイズメンズクラブ 大和田 浩二

1月25日(日)の20:00～21:00にオンラインミーティング(Zoom)で、ワイズメンズクラブ東日本区主催の「ナイトフォーラム」が約45名の参加者で開催されました。これは、ワイズメンズクラブの行なっている社会に関わって行く活動を色んな人に知ってもらおうと、数年前から行なっているものです。

これまで、それぞれのワイズで行なっている社会とつながる活動の紹介が中心でしたが、今回は「不登校」に焦点を絞って1月から3月までの2回のシリーズで主にYMCA が取り組んでいる不登校への取り組みを学び、そこからワイズメンズクラブや社会の様々な人々へこのことについて関心をもってもらうとしています。

最初の発表者には、山梨YMCAから土肥満さんが登場して、山梨YMCAの不登校プログラム・わいわいクラブの現状やそこに至る経緯、社会の問題との取り組みを熱く語ってもらい、大変好評でした。



ナイトフォーラムⅢ（1/25第1夜）ビデオ
まだご視聴になっていない方は、こちらからご覧ください。

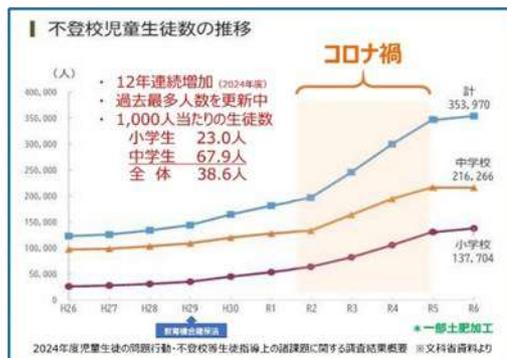
◀ ★動画はこちらから！★

2026/1/25 ワイズメンズクラブ東日本
ナイトフォーラム 提案資料

YMCA あつまる、つながる、よくわかっていく。

YMCAとして
社会課題にどう取り組むか
～ 不登校問題を考える ～

山梨YMCA
法人事務局長 土肥 満
教育心理研究所代表
(ココカラゼミ・わいわいクラブ担当)



山梨いのちの電話主催 講演会

NPO法人山梨いのちの電話では、誰にも言えない悩みに苦しむ方や生きることが辛くなった方を支え、寄り添いながら活動している団体です。初代理事長は、山梨YMCA総主事であった、大澤英二さんが担い、現在でも山梨YMCAと山梨いのちの電話は深いかわりをもっています。



山梨YMCA本館グローバルコミュニティーセンター駐車場にも、2024年に寄付型自動販売機が設置されました。のどの渇きを潤すだけではなく、購入した1本1本が「いのちの電話」の活力となります。特別なことをしなくても、いつもの1本が社会貢献に繋がります。ぜひ、この自動販売機をご利用ください。

山梨いのちの電話主催の講演会が、1月24日に、山梨県立図書館で開催されました。

自殺予防講演会でヒオカさん語る

NPO法人山梨いのちの電話 前理事長 財務委員長 高戸 宣人

1月24日(土)、山梨県立図書館で山梨いのちの電話主催の自殺予防講演会が開催された。「死にたかった私が死ねないと思えるまで」と題し、ライターの高戸さんが語った。

日常に暴力がある貧困家庭で、周囲の家庭とは大きな格差がある中で育った。無邪気な強者の言葉にも傷つき、いつの間にか心の中に希死念慮が住みついていたという。

友人を自死で失ったとき、気づいてあげられなかった申し訳なさ、絶対に元には戻らない現実と直面する。ネットでは「自殺する人は心が弱い」と言うが、そもそも「強さ」とは鈍感さ、共感性が低いということではないのか。心は弱いのではなく、抱えているものが大きすぎるのだ。

標準モデルから外れた人たちは周縁化され不可視化される。生きたいと思えるには健康で文化的な最低限度の生活が保たれることが必要で、それは政治の責任なのだと思う。

ヒオカさんは生活が安定してきて生きている実感が芽生え、やっと「まだ死にたくない」と思えるようになってきたという。

講演の最後に、「人として一番大事なものは人の痛みがわかることだと信じている」と言われた言葉は、胸に深く沁みだ。



史料室便り No.9

山梨YMCA初代総主事 桑島 一郎さん

史料展示室運営委員 岩間 孝吉

【桑島一郎さんのあゆみ(葬儀次第より編集)】

- ・1920年(昭和9年)6月2日、桑島敏統(としむね)・信濃(しのの)の長男として韮崎市に誕生。小野善太郎牧師より、幼児洗礼を受ける。旧制山梨県立韮崎中学校卒業。
- ・1942年(昭和17年)9月、旧制明治学院高等学部卒業、その後、明治学院大学文学部に進学し、1954年3月に同大学を卒業。
- ・1946年(昭和21年)5月1日、山梨YMCAが発会式を行っているが、桑島の具体的な関わりを示す記録は見つからない。しかし、発会の中心人物、初代理事長・市川規一らとは深い関りがあったことは、多くの記録が残っている。すなわち、東京に出た彼らは、小石川にあった「山梨共修社」という県出身学生のための自治寮で生活を共にしていたことが縁で、桑島は韮崎から手弁当で、甲府の市川宅に在ったYMCAの事務所に通って、他の役員らと共に活動の中心的役割を担い、日本YMCA同盟の主事講習会にも参加している。
- ・1950年(昭和25年)、山梨YMCAの初代会館を完成し、第1回ハイワークキャンプを推進した年であるが、桑島にとっては、人生の分岐点の年でもあった。1951年から、山梨英和中学・高校の教師の道を選択した。
- ・1980年—1984年、山梨英和中学・高校第17代校長として勤務。
- ・2019年(平成31年)12月1日、召天、99歳。



桑島一郎校長



第17代校長桑島一郎

【YMCA40年史の桑島一郎の写真】

国際協力募金

国際協力募金 ご協力ありがとうございました

YMCAの国際協力は、世界につながるYMCAと共に難民支援、コミュニティ支援、災害支援、そして国際理解のための活動を行い、多様な文化や価値観が存在する世界で一人一人が大切にされ、平和な社会を目指します。

みなさまの温かいお心をお寄せくださいましたことを感謝をもってご報告いたします。集められた募金は、日本YMCA同盟を通して国内外のYMCA国際協力事業に用いられます。

改めて、ありがとうございました。

YMCA国際協力募金合計 104,774円

(2月24日に日本YMCA同盟へ送金いたしました)



山梨YMCAの子どもたちから、
絵やメッセージが多く寄せられました。

のぞいてみよう 山梨YMCA



山梨YMCA公式ホームページ



山梨YMCA公式Facebook



@YAMANASHIYMCA_YAGAI



YAMANASHIYMCA_YOUTH

ご寄付のご協力に感謝いたします。

2026年 1月 (敬称略)

鈴木健司
廣瀬 仁
愛宕町教会

山梨英和カートメルこども園
山梨英和ダグラスこども園
山梨英和プレストンこども園
甲府ワイズメンズクラブ
甲府21ワイズメンズクラブ
富士五湖ワイズメンズクラブ
甲府やまなみワイズメンズクラブ
松本ワイズメンズクラブ

インフォメーション

創立80周年記念早天祈祷会

日 程：2026年5月1日(金)

時 間：7:15~8:15

山梨YMCAインターナショナル チャリティーラン2026

日 程：2026年5月23日(土)

場 所：小瀬スポーツ公園補助競技場(甲府市)

山梨YMCA会員総会 創立80周年記念式典

日 程：2026年6月27日(土)

時 間：(総会) 10:00~12:00

(式典) 13:30~16:00

場 所：山梨YMCA

大澤英二記念ホール「ベテル」

野外活動

おわカレーオリエンテーリング

日 程：2026年3月14日(土)

場 所：銀河鉄道の森(韮崎市)

今年最後のアウトドアクラブです！



お申込み受け付けて
います。
詳細はホームページ
をご覧ください。

表紙の写真から



2月11日に、山梨YMCA
チアダンスチームはUSA
大会 (united spirit associa-
tion) に参加しました。

残念ながら、今年は賞
をとることはできません
でした。目標に向かって
心を一つに取り組んだ時
間は大切な時間でした。

オンラインレッスンを
通じて生まれたつながり
と笑顔は、これからの活

動にもきっと生きていくと思います。

ご指導してくださった鹿兒島YMCAの皆さんに心より感謝いた
します。